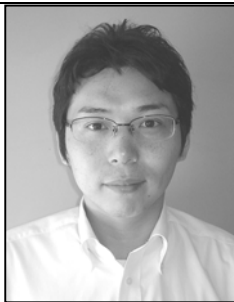


## 「まち」と「ひと」と共に 成長する技術者を目指して

所属：株式会社日本海コンサルタント

氏名：真島 俊光

部門：建設



### 北陸支部

#### 略歴

1981年生れ

長野県出身

抱負：小さなことからコツコツと  
頑張っていきます！

私は学生時代から、まちなかにシャッター通りが増え、徐々にまち全体の賑わいや活気が薄れていくことへの寂しさを感じていました。社会人となり、仕事を通じて具体的にまちづくりに携わると、問題の根深さや難しさを痛感し、悪戦苦闘する毎日です。

さて、私がまちづくりに携わるきっかけとなった出身地である長野県飯田市の事例を踏まえて、技術者としての目標を述べたいと思います。

#### ◆飯田りんご並木の生い立ち

飯田市は、昭和22年に発生した「飯田の大火」により市街地の大半を焼失し、その教訓から、延焼防止を目的として、市街地には町を4分割するように防火帯として二本の道路が整備されました。また、当時の飯田東中学校の生徒達の提案により、道路の緑地帯として昭和28年に「りんご並木」が整備され、多くの人に支えられながら、今日までまちのシンボルとして中学生らの手で守られ、育てられてきました。



#### ◆りんご並木とまちづくり

近年では、全国と同様に飯田市においても、モータリゼーションの進展による都市機能の郊外移転等により、中心部の衰退が深刻化しました。これに対し、商店主や市民が危機感を持ち、中心市街地活性化に向けた検討が開始され、平成11年に歩行者優先の公園型道路としてりんご並木が改修されたほか、並木沿道に再開発ビルが2棟建設（平成13、18年）されました。また、ハード事業だけでなく、「株式会社 飯田まちづくりカンパニー」による空き店舗活用やテナント誘致、交流拠点「三連蔵」の運営などのソフト事業も展開されており、現在では、りんご並木を中心としたまちづくりが進められています。



飯田りんご並木の今昔（飯田市HPより）

#### ◆「まち」と「ひと」と共に成長する技術者を目指して

大火の復興として、中学生を中心として作られたりんご並木は、市民や多くの人に支えられ、まちのシンボルにまで育ちました。現在では市民にとってりんご並木が地域の愛着や誇りとなり、賑わいや活気を作り出す場所となっています。このように、「まち」と「ひと」が互いに支え合い、ともに成長するまちづくりを行っていくことが重要だと思います。

私は、まちづくりに携わる技術者として、「まち」と「ひと」の橋渡しをしながら、自らも成長し、地域社会に貢献できるよう、技術研鑽に励みたいと思います。